

臨書課題

高橋香樹会長担当 (6月22日締切)

薦季直表・鍾繇



第四回

- 1、字句「旅食許下」
- 2、形式「半紙タテ使用。右に「旅食」、左に「許下」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と書き入れる。
- 3、概観「今回は「薦季直表」の字形の特徴をみてみたい。字形はほぼ偏平で、ずんぐりとした向勢にとることにより、懐が広くなり、明るい感じとなる。このことは、九成宮の縦長で背性の形と比較するとあきらか。時には偏と旁をあけたり、横画・波法がずいぶんと長く引かれている。
- 4、各字のポイント
 旅 「方」の二画目を少し長くし、旁を偏と入り組ませ、旁の右払いを長くしバランスをとる。
 食 「良」はやや左に寄っているが、二画目の右払いを長くしバランスをとる。
 許 「言偏」二画目を極端に長くするが、一画目の点から三・四画「口」と左側を左によせてゆき、二画目の長さを不自然にさせない。
 下 一画目の横画を長くするが、二・三画目は、太さ・位置で安定させている。

一字書課題

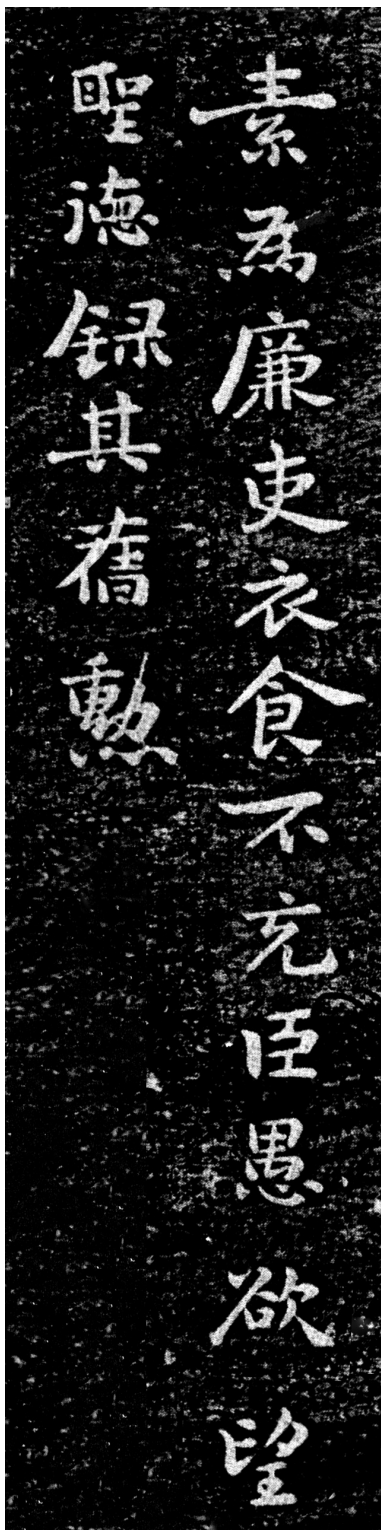
(六月二十二日締切)

昇

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) パーコード券の余白に「一字書」と記入

条幅・半紙 随意参考

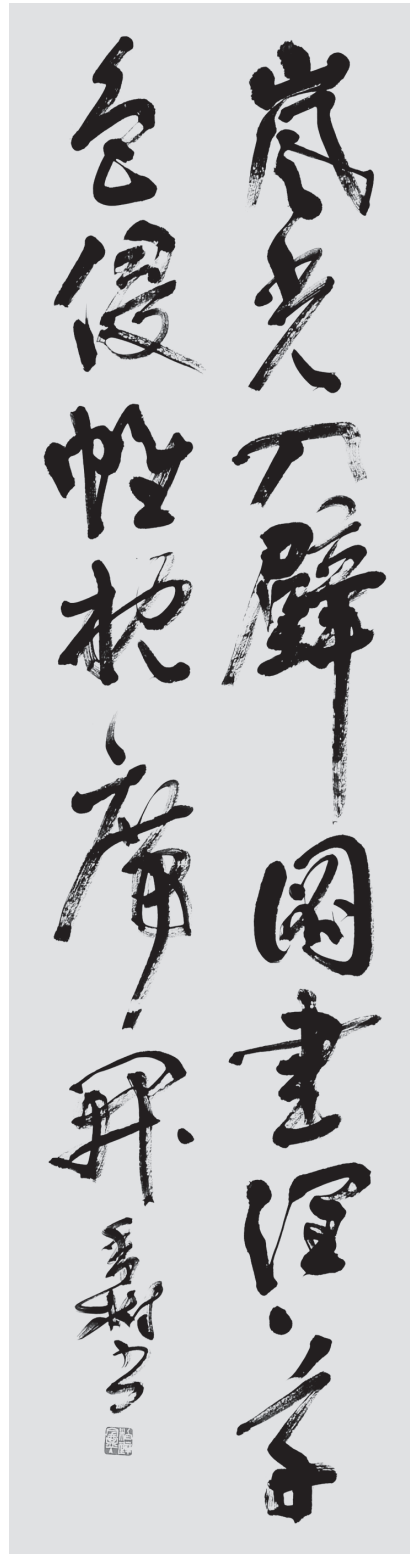
素為廉吏。衣食不充。臣愚欲望。聖徳録其舊勲。



※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部は無料。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

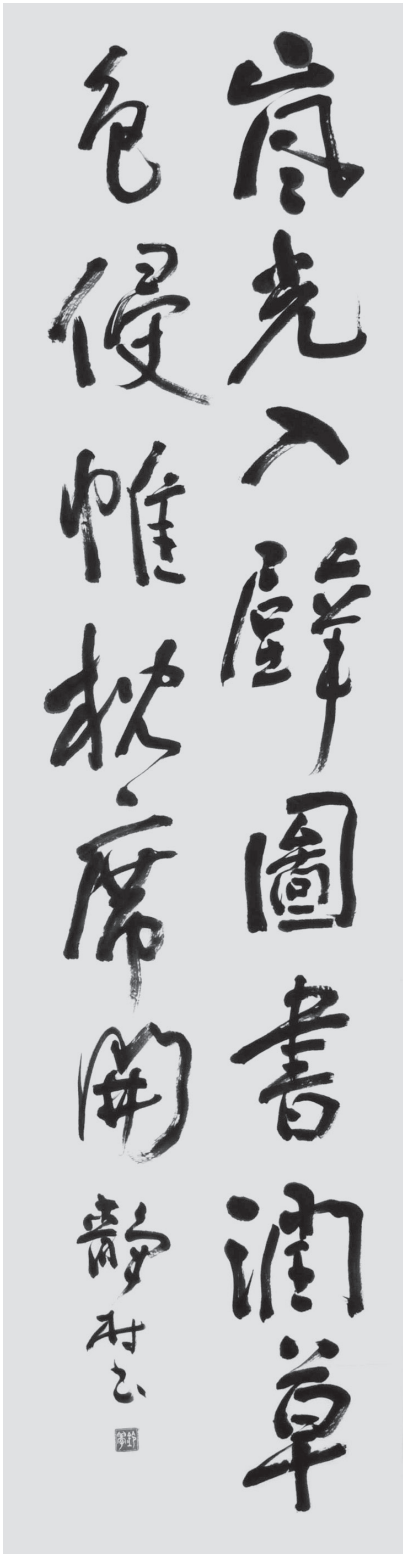
A
高橋 香樹 会長 書

嵐光入壁圖書潤 草色侵帷枕席開 (良琦)
嵐光壁に入り図書潤い、草色帷を侵して枕席開く。



B
鈴木 静村 先生 書

懸針を使うことができる文字(壁・席・開)が三字あるので、この処理を如何にするかに意を用いた。結果、「壁」を真っ直ぐに、「席」は末筆で左にカーブさせ、「開」は短くしました。今回も草書を中心にとの思いで十字としました。連綿は一ヶ所のみ。墨継ぎは「潤」と「帷」。



訳：山気の蒸しあう光は壁間に入ってきて書籍をしめらし、階前の草の色はとばりを侵して部屋に入ってくる。

予告 (七月二十二日締切)

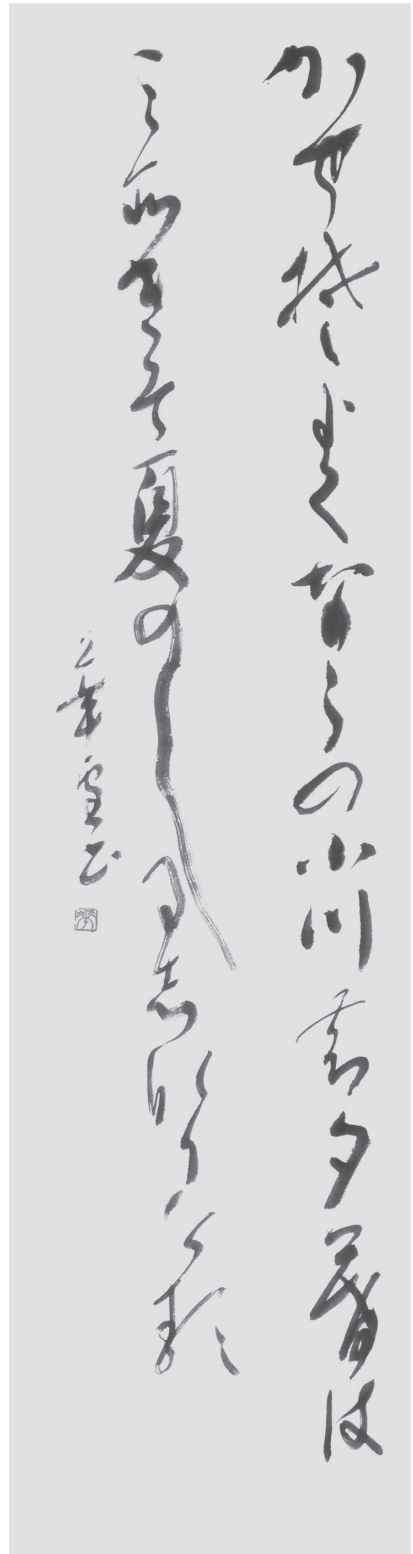
野石静排爲坐榻

溪茶深煮當飛觥 (伍喬)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A
平岡華雪先生書

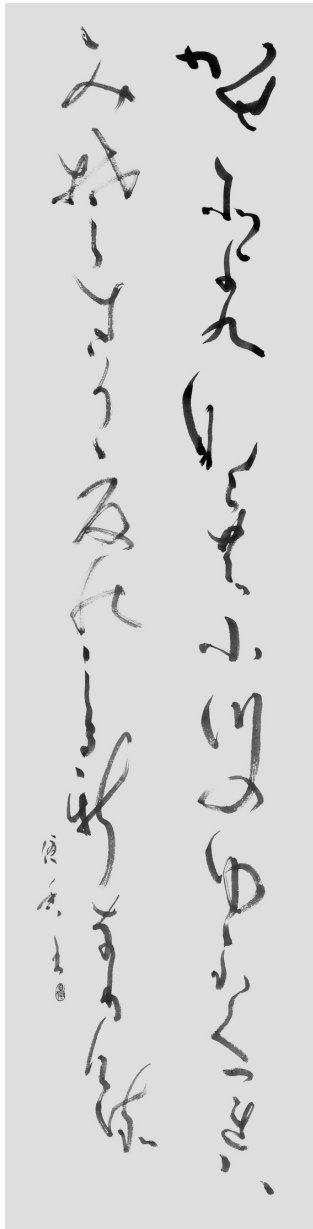
風そよぐならのをがはのゆふぐれはみそぎぞ夏のしるしなりける (藤原家隆)
かせ楚よ久ならの小川農夕暮は三所きそ夏のしる志那り介類



B

本澤優香先生書

かせ所よ九那ら農小川のゆふ久連八み楚支曾夏能之る新奈利介流



小倉百人一首第九八番歌 (従一位家隆)。

作者は、藤原家隆(一一五八〜一二三七)。鎌倉時代初期の公卿、歌人。権中納言・藤原光隆の次男で、初名は顕隆。和歌を藤原俊成に学んだ。「新古今和歌集」の撰者の一人。有職読みで「かりゅう」とも呼ばれる。病により出家し、法名は仏性と号し、翌年四月九日、難波の天王寺で日想観を行いながら没した。最晩年に壬生一位に至る。

学び方

歌意：風が檜の葉に吹いて、そよそよと音を立てている。檜の小川(京都市北区の上賀茂神社の境内を流れている御手洗川)の夕暮れは、秋のように涼しいけれど、みそぎが行われているのは、夏のしるしだなあ。作品について

- 出だしの「かせ」をツメて書き始めました。
- 常に文字の大小、墨の濃淡、次の字への間合いを考えながら書き進めてほしいと思います。
- 「の」と「そ」が各々三つありますが、どの文字(変体仮名)をどこの位置で使うかを前後の調和や全体のバランスを考えての構成をしてみてください。
- 墨継ぎは「之」で。緊張しますが、呼吸を整えて、そっと落筆して下さい。

予告 (七月二十二日締切)

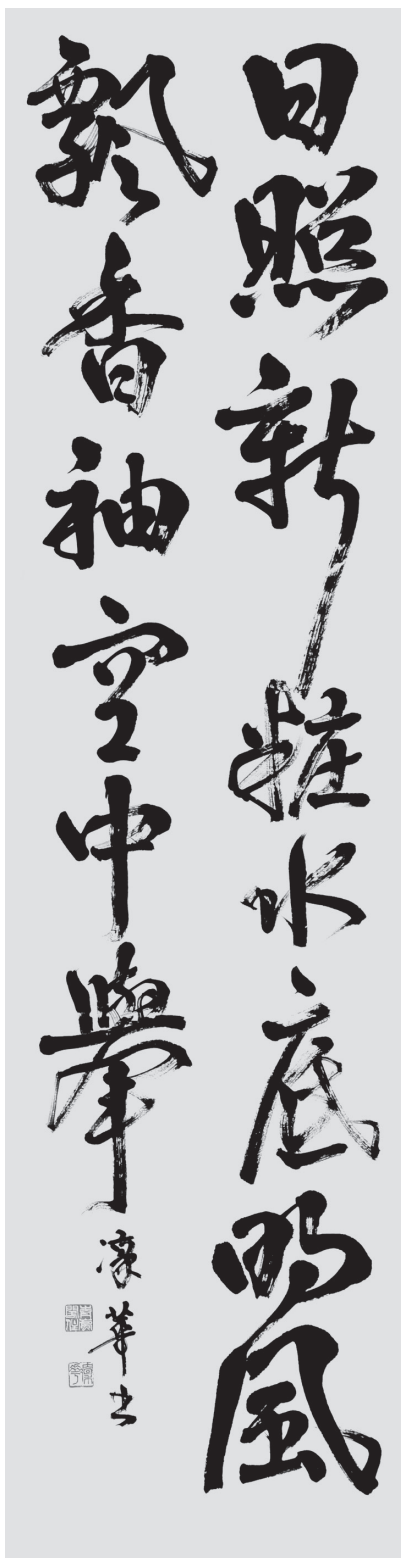
空高くあがれば人のあふぐかな光はおなじほたるなれども (正風)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部随意参考（創作部門最優秀作品）

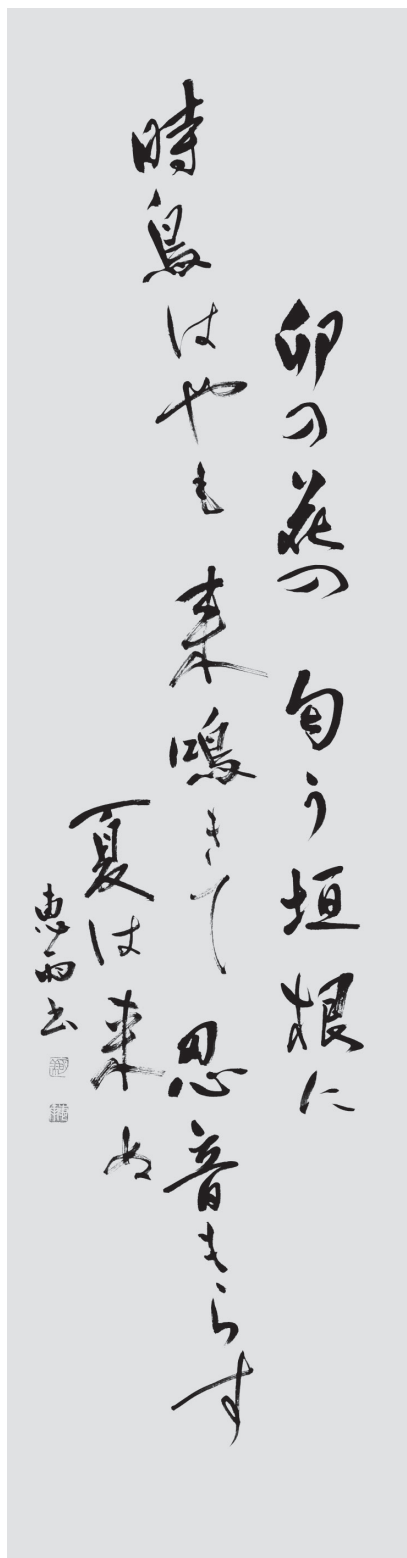
蒼穹 勝間 凜華

日照新粧水底明 風飄香袖空中舉（李白）
日は新粧を照らして水底明らかに、風は香袖を飄して空中に挙がる。



訳：日の光は、化粧したての姿を照らして、明るく水中に写し出し、流れる風は香わしい袖をひるがえして、高く空中に吹き挙げる。

恵華 金田 恵雨 卯の花の 匂う垣根に 時鳥 はやも来鳴きて 忍音もらす 夏は来ぬ（佐佐木信綱）



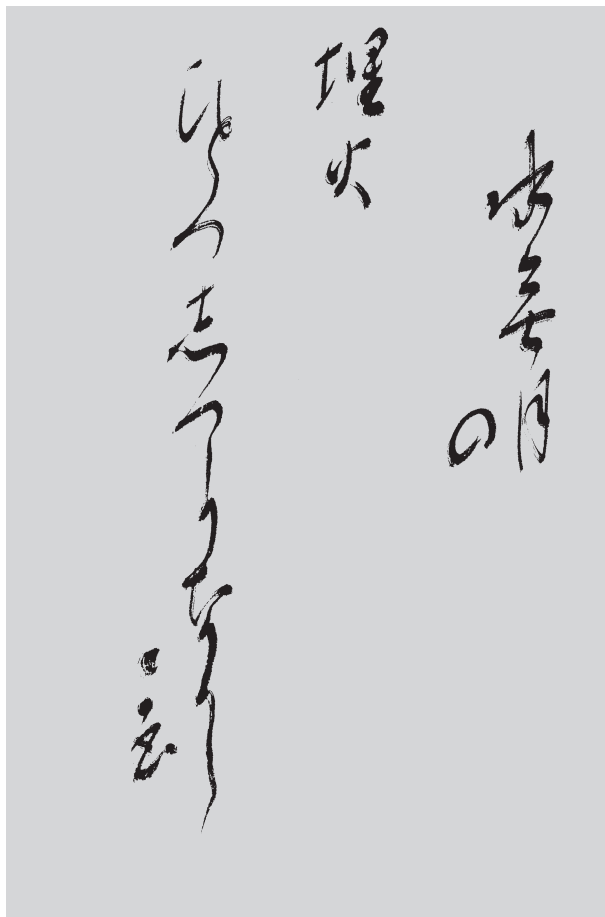
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）
- ※創作部門最優秀作品は随意部参考手本として掲載します。

かな部課題参考 (六月二十二日締切)

漢字部課題参考 (六月二十二日締切)

予告 (七月二十二日締切)

閑さや岩にしみ入る蟬の声 (芭蕉)

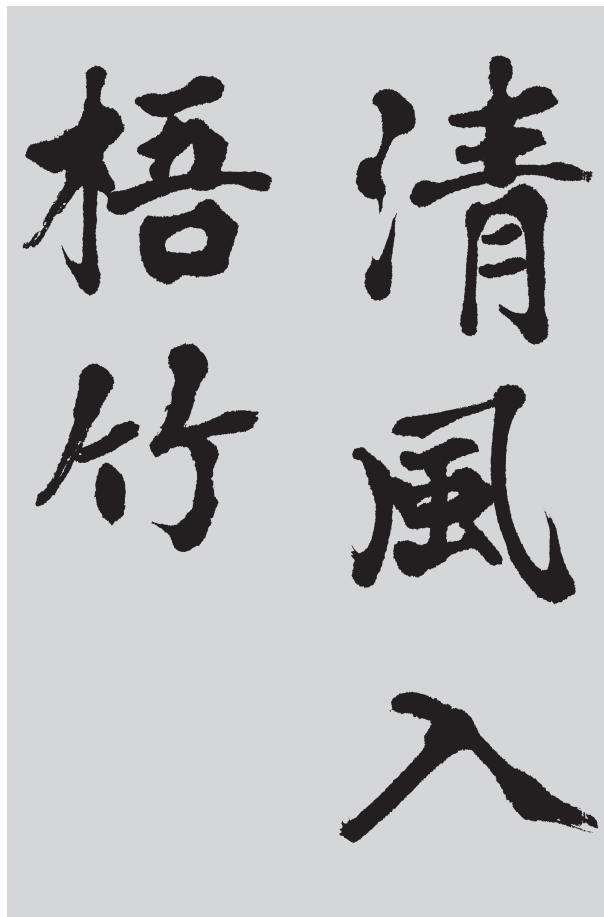


平岡華雪先生書
 みなつきの埋火ひとつしづかなり (曉臺)
 水無月の埋火ひとつしづかなり

上半部に「の・埋・ひ」と行を改めた構成。改行する際、筆意が前行と別調にならないように注意。自分の調子で書けるまで、じっくりと書き込むことです。「ひと」右下で連綿。「志つ可」緩急のリズムを。

予告 (七月二十二日締切)

竹香新雨後 (張籍)



平岡華雪先生書
 清風梧竹に入る
 訳：すずしい風が梧(きり)や竹にそよぐ。

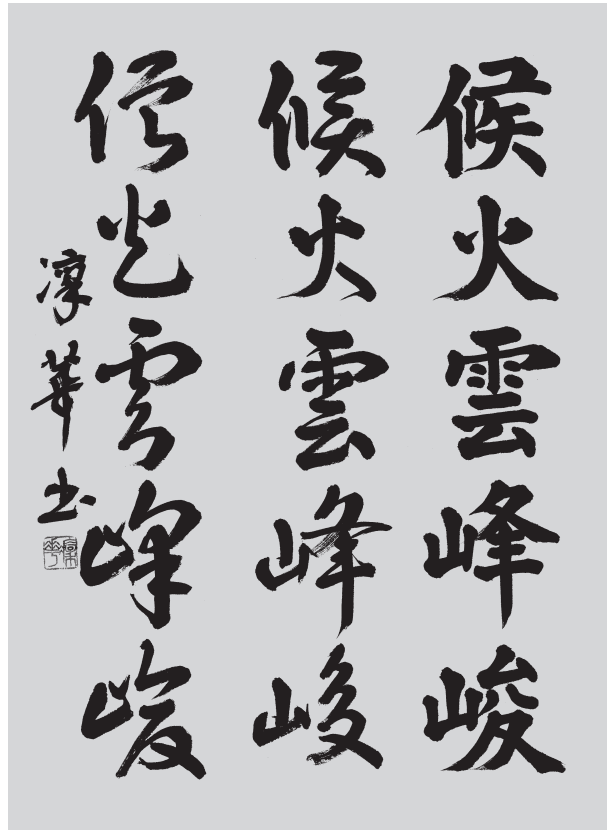
「風」の構えは難しい用筆のひとつ。一画目は入筆後、二画目は転折後内に入り、後外に開いてゆく。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (六月二十二日締切)



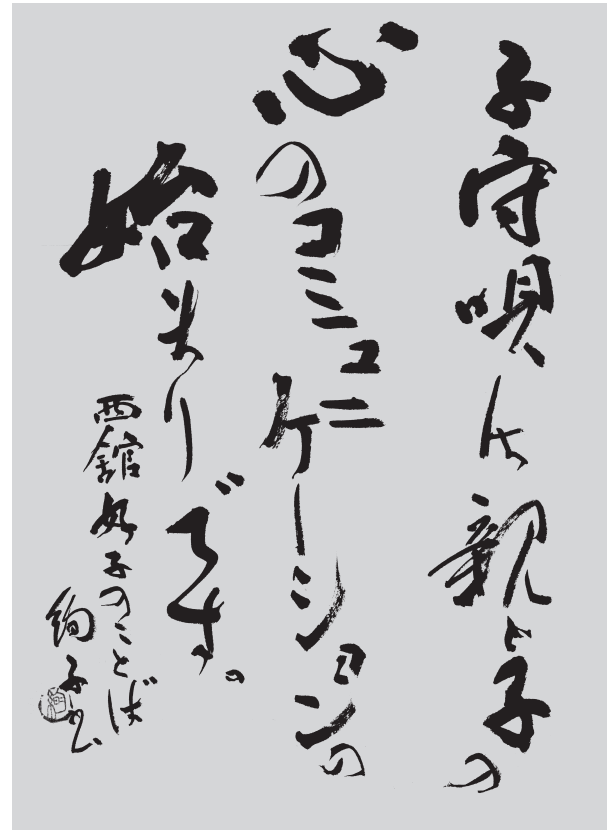
勝間 凜華 先生書

候火雲峰峻 (杜甫)
候火こうか 雲峰峻うんぼうけんしく

訳：そして、のろしの火があがる。人が登れるとも見えぬ、けわしく高い峰の上に。

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

漢字かな交じりの書課題参考 (六月二十二日締切)



宮 絢子 先生書

子守唄は親と子の心のコミュニケーションの始まりです。
『日本の子守唄』ユニコ舎刊 西館好子

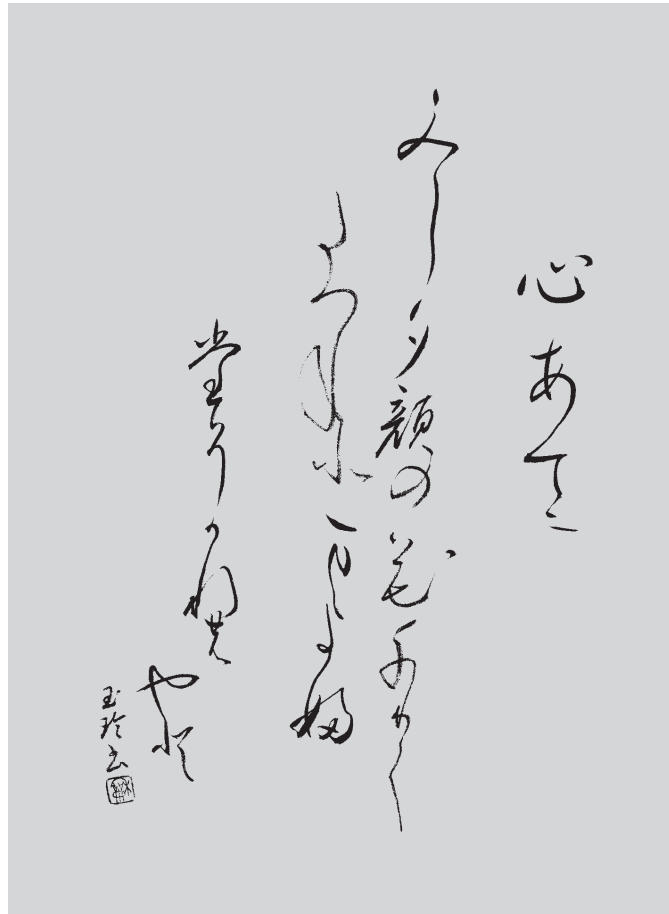
全国に何万とある昔から唄われ続けてきた「子守唄」を尋ね歩き、その唄の継承をライフワークとしている西館好子さんのことば。
漢字・平仮名・片仮名の混然としたことばですが、心に一番響いた『心のコミュニケーション』を際立つように墨量を多くし、線の鋭さをねらってみました。

西館 好子
好子とば

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

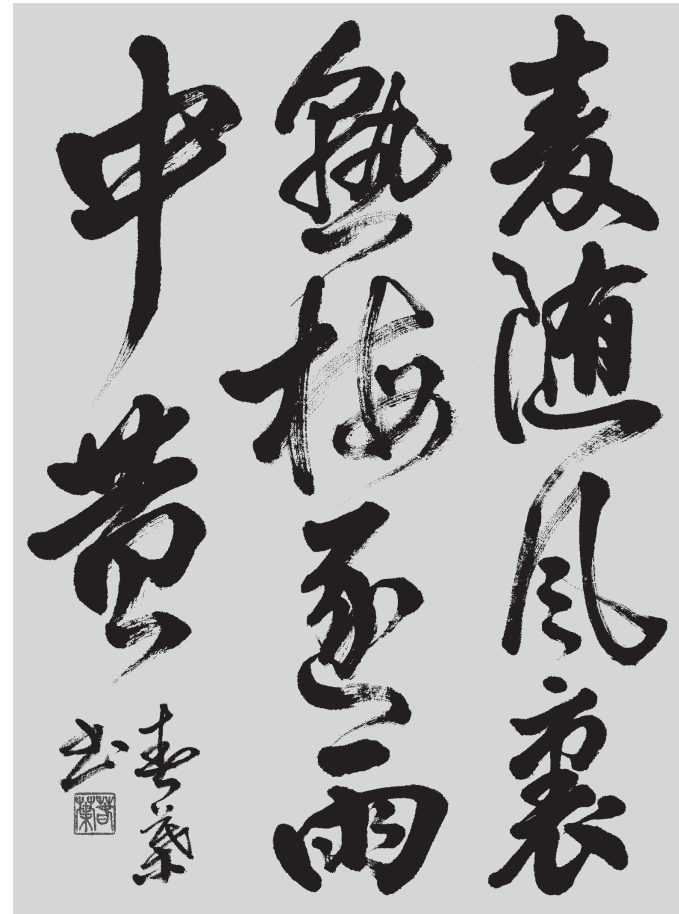
随意部参考

随意部参考



大和田玉玲先生書

心あてに見し夕顔の花散りて尋ねぞ迷ふたそがれの宿 (松平定信)
 心あて二みし夕顔の花千利氏多つ年所方よ婦堂曾可礼農や登



多胡春葉先生書

麦随風裏熟 梅逐雨中黄 (庚信)
 麦は風裏に随いて熟し梅は雨中を逐うて黄なり。

訳：麦は風にふかれて熟し、梅の実は雨の降る中に黄色に熟した。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①出品部門（例：「随意部」） ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

書はあたり前と見えるのがよいと思う。
無理と無駄との無いのがいいと思う。
力が内にこもって騒がないのがいいと
思う。

書はもとより造形的のものであるから、
その根本原理として造形芸術共通の公理
を持つ。比例均衡の制約。筆触の生理的
心理的統制。布置構造のメカニズム。

課題 1 (初段階以上)

書はもとより造形的のものであるから、その根本原理として造形芸術共通の公理を持つ。比例均衡の制約。筆触の生理的・心理的統制。布置構造のメカニズム。
『書について』高村光太郎)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段階以下)

書はあたり前と見えるのがよいと思う。無理と無駄との無いのがいいと思う。力が内にこもって騒がないのがいいと思う。
『書について』高村光太郎)